

令和3年度 学校経営方針

1 学校経営の基本

国は、「第2期教育振興基本計画」を策定し、次の3つの理念の実現に向けた生涯にわたって学び続けることのできる人材の養成を目指している。

「自立」 「協働」 「創造」

山梨県は、「令和3年度学校教育指導重点」において、次の5つの指導重点を示している。

① 確かな学力の育成 ② 豊かな心の育成 ③ 健やかな体の育成 ④ 地域や世界で活躍できる人材の育成 ⑤ 特別支援教育の推進	} 学級経営・ ホームルーム経営の充実
--	---------------------------

中央市は、「中央市教育振興計画」（第2次計画 令和2～11年度）を策定し、「まごころを育む教育」を柱として、以下の項目を重点目標としている。

まごころ		
生きる力をはぐくむ教育（生）	命を大切にする教育（命）	信頼しあう教育（信）

2 校 訓 明るく 直く すこやかに

3 学校教育目標と子どもの育ちのめあて

【学校教育目標】		【子どもの育ちのめあて】
生きる力をもつ子ども		自分でできることを増やそう（自分で）
命を大切にする子ども	→	みんなとなかよくしよう（ともに）
共に生きる子ども		みんなのために働こう（ために）

「生きる力をもつ子ども」＝自立してたくましく生き抜く資質・能力をもつ子ども（自立）

「命を大切にする子ども」＝自他を尊重しながらよりよく生きる資質・能力をもつ子ども（共生）

「共に生きる子ども」＝他のために働く資質・能力をもつ子ども（奉仕・貢献）

4 経営の方針について

（1）基本方針

- ①授業を中心に教育活動全体を通して、教育目標の具現化に努める。
- ②「子どものために」を基本とし、全教職員の共通理解のもと、組織として一貫した指導に努める。
- ③適切な児童理解と受容的・共感的態度に基づく指導に努める。
- ④「まごころ」をもち、児童・保護者・地域とともにある信頼される学校づくりに努める。
- ⑤子どもも教職員も育つ学校づくりに努める。

(2) 基本方針における留意点

- ① 学校評価活動を経営の基軸に置き、取り組むべき重点を絞り、具体目標と指標を定める。
- ② 子どもの良さと育ちについて、具体的な子どもの姿で語り合う。
- ③ 学習指導要領の趣旨を学び、「教師が教える授業」から「児童が学ぶ授業」への転換を図る。
- ④ 学習したことの活用を重視し、総合的な学習の時間を中心に各教科・領域の関連を図る。
- ⑤ 受容と許容を区別し、「チーム田富小」としてぶれない指導を行う。特に、いじめや不登校については、全教職員の目で未然防止・早期発見・早期対応を心掛ける。
- ⑥ 読書・家庭学習・スマホ・登下校時の安全確保の取り組みについては、保護者・地域との連携・協力を心掛ける。
- ⑦ 通わせたい魅力的な学校をめざし、各種便りやHPで「楽しい学校」の姿を発信する。
- ⑧ ミドルリーダーを育て、若手教師を伸ばす。
 - ・主任会議で重点項目を分担し、目標設定、具体策推進、評価書作成においてリーダーシップを発揮させ、学校評価を通して学校運営の一旦を担わせる。
 - ・学年主任が、学年の若手の育成目標や具体的な手だてを自己観察書に記述して指導に取り組む。
- ⑨ 業務改善を進め、聞き合い支え合う職場環境をつくり、多忙感を解消する取組を進める。
 - ・勤務時間把握：出退勤時間記録による勤務時間の把握。業務の見直し。職員の意識改革。
 - ・多忙感の解消：何でも話せる職場の雰囲気作り。

5 今年のメッセージ

聞いて考え、語り合う子は伸びる

読む子は伸びる

書く子も伸びる

6 令和3年度重点項目

※ ☐ はその具体策案と例

社会を生き抜く ☐ 生	1	自立への基礎を培う 学校生活において、めあて・見通し・ふりかえりを日常化し、自己の成長を実感させる。また、書くことにより考えを整理したり客観視したりして、次の学習や生活とのつながりを意識させる。自分のできることを増やし、さらにその力を使ってみんなのために働くことで充実感を味わわせる。 保護者と連携し、健康で安全な生活を送るために必要な生活習慣の確立に努める。 めあて・見通し・ふりかえりの日常化 田富小スタンダードの定着 つなげる日記 4年生による新入生アシスト活動 ヘルメット着用率の向上 新しい生活様式の定着 スマホ・ネット・ゲーム依存の防止 キャリアパスポートの活用
確かな学力 ☐ 生	2	聞いて考え、語り合う子を育てる 育てたい聞く力や語り合う力を、授業実践を通して具体的な子どもの姿でとらえ、校内研究を中心に討議して一般化し、共有していく。 既習事項や生活経験をもとに子どもが学習課題を持ち、見通しをもって主体的に学べるようにする。また、ICT機器やホワイトボード等を活用して、子どもたちが語り合い、互いの考えを深める対話的で深い学びをつくる。 聞く力・語り合う力の見取り 考え、語り合い、振り返る時間の確保 タブレットの効果的な活用
	3	読む子を育てる 保護者と連携し、読書好きで多様な読書のできる子を育て、家読活動を充実する。朝の活動で音読に取り組み、暗唱できる詩や名文をもてるようにする。 家読カレンダー 家の人に見せよう借りた本 詩や名文の暗唱

	4	確かな学力を支える授業の実現 判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを相手に分かりやすく述べることで できる子どもたちを育成する。 1時間1時間のねらいを明確に持ち、単元を通して育てたい資質や能力を意識して、子ども の思考の流れに沿った学習活動を設定する。また、学習感想やつなげる日記の記述から 児童の気づきや児童相互の関連を把握し、次の授業に活かす。 日々の授業と校内研究 「つなげる日記」の授業への活用 学年別学力向上会議 めあて・課題・まとめの板書 板書記録ノートによる指導の振り返り
	5	自ら学ぶ子を育てる 保護者と連携し、家庭学習の適切な習慣化を行い、発達段階に応じた「30-45-60分 の学習時間」の確保と質の向上を進め、自ら学ぶ意欲と能力を育てる。 やってみるじゃんノート 家庭学習アンケートの通年実施と個別懇談での共有化 自由研究相談会
豊かな心 信 (命)	6	心の居場所と望ましい人間関係の実現 聞いて認めることを基本とし、信頼関係と規律が確立された心の居場所と望ましい人間関 係の実現に努めるとともに、いじめや不登校等の未然防止、困ったときに安心して助けを求 められる体制づくりに努める。 いじめ調査と面談と継続指導 QU調査の活用
	7	地域とつながるあいさつの活動の推進 地域の人とつながるあいさつの大切さに気付かせ、児童会や学年学級で主体的な活動 を進める。 児童会活動 まごころ給食
	8	共生の教育の推進 自分自身のよさや成長に気付かせ、自己肯定感を高める。 互いの特性や文化・生活習慣の違いなどを理解し、相手を尊重しながらともに学んだり働 いたりする力を育てる。 多言語環境と特別支援の校内委員会 フロントシップ委員会の活動 ほめ言葉のシャワー
健やかな体 命	9	体力向上の推進 体力テストの結果から見えた走力低下の課題を克服するために、運動に親しむ態度を育 て日常化を図り、体力(走力)の向上に努める。 春・秋の走力測定 体育委員会の活動
	10	健康増進の推進 心身の健康を維持するため、新しい生活様式や食に関する知識を身に付け安全で健康 的な生活を送る資質・能力の育成に努める。 児童の健康状態の把握 教育活動を通じた健康に関する教育の実施 手作り弁当の日 教育活動全体を通じた食に関する教育の実施
信頼される 学校 信	11	積極的な情報発信と連携の推進 家庭訪問や個別懇談の他、日常的に保護者とコミュニケーションを図り、子どもの小さな育 ちをともに喜ぶ信頼関係を育む。 「楽しい学校の姿」を発信することにより関心を高め、授業参観への出席や学校行事への 協力を促進する。 年間3回の学校運営協議会を実施し、地域に開かれた学校運営に努める。 ほめTEL 学校運営協議会の実施 学校HP・ブログの充実

